



発行人 福島県教職員組合
 発行所 福島市上浜町10-38 電話024-522-6141
 [定価一部 20円]
 編集・責任者 瀬戸 禎子
 e-mail: ftukyoso@poplar.ocn.ne.jp
 http://www.f-t-u.or.jp
 (この購読料は組合費に含まれています。)

ろうさんのキャッシュカードなら
 ATM お引き出し手数料が

実質 **0円**



東北労働金庫

オンラインで各支部をつないで 第98回定期大会開催！

5月28日(土)第98回県教組大会を開催しました。昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染予防対策として、オンラインでの開催となりました。

瀬戸禎子中央執行委員長は、あいさつの中で、ウクライナ軍事侵攻から世論が「憲法改正」に傾いている状況に触れ、「『教え子を再び戦場に送らない』ために、改めて日本国憲法を護り活かす取り組みが必要。また、多忙化解消のために、県教委へ業務の大幅な削減を要求し、各地教委や学校で具体的なアクションをどう起こしていくのかを問いただしていく。」と訴えました。

また、日教組から山木書記長がかけつけ、ウクライナ軍事侵攻や3・11原発災害後の福島の状況等に触れ、「組合員の要求が実現し、教員免許更新制が廃止された。多大な負担をかけ教員不足の一因にもなった制度がようやくなくなり、研修制度の課題についても今国会の中で日政連議員を中心に追及された。今後も全国の仲間とともに粘り強い運動を継続したい。」とあいさつしました。

◎ 出された質疑は10本。主な内容は以下の通りです。



相馬 ピアカウンセリングを続けてきて良かった点。また、今年度は日教組からの支援あるのか？ 出生サポート休暇の詳細について教えてほしい。

回答) 昨年度は48分会で活用された。今年度も6月～12月に活用できるよう、日教組から財政支援される。

出生サポート休暇は、今年の1月1日から取得できるようになった。

岩瀬 ALPS 処理水のチラシ配布において、県教委へ配布の中止を求めた内容は。教育委員会を通さず、直接学校に届いている状況は問題である。県教委や国に申し入れをしたのか聞きたい。

回答) 県教組から県教委義務教育課へ、チラシ配布について問いただし、申し入れを行った。県教育長が国に対して、抗議を行った。

いわき 教員免許更新制度に代わる新たな研修制度の導入について、いわき支部は「導入自体を反対」している。県教組として反対の具体的な取り組みは。

回答) 県教組としては、導入自体反対してきた。今後、新たな研修制度について、管理強化や負担増にならないよう、交渉していく。

北会 教員採用試験対策講座 TOPPA 塾の取り組み内容について。組合加入や参加者との繋がり等の成果は。また、青年部の活動の状況についても教えてほしい。

回答) TOPPA塾に参加した人が、採用されて組合に加入しているケースもある。また、青年部では、Tとーくなど「語り合い」できる行事を企画してきた。

福島 小教研・中教研の民主化の推進について。具体的にどのような取り組みがあったのか。どのように民主化を進めていくのか。教育実践について力を入れて取り組んでほしいと考えている。

いわき 主任制度手当の反対の取り組みについて。主任手当拠出の継続、休止など今後の見通しは。評価されている活動の一つだと思っているので、そこも踏まえてほしい。



◎ 大会では、17本の討論が出され、各支部の取り組みや学校現場の現状等、様々な視点から出されました。主な討論は以下の通りです。

伊達 インクルーシブ教育について。子どもの数が減っているにもかかわらず、特別支援学校・学級が増えていいる。伊達支部でも1つの学校に9つの支援学級があったり、小規模校では全校児童の1/3が支援学級に在籍している状況の学校があったりしている。自分から支援学級の児童を受け入れ、インクルーシブ教育を実現することができた。少しの工夫や発想の転換によって実現できるので、子どもたちのつながりを大切にして同じ場で学べるようにしてほしい。



福島 2年間で支部の書記長をした際、コロナ禍において情報発信を大切に活動した。交渉の概要や定年延長の情報を伝えた。学校で見られていると感じる反面、掲示・回覧されておらず伝わっていないと感じることもあった。忙しい状況はわかるが、「忙しいから何もしない」ではいけない。「忙しい→活動できない→何も変わらない」ではなく、「この大変な状況をみんなが共有している→力を合わせて声を上げる→変わる」というスパイラルにしていけることが重要である。

岩瀬 GIGAスクール政策について。個別最適化という名目でAIドリルが導入されているが、本当の学びになっているのか？豊かな学びにはなっていないのではないか？子どもを主体とした学習になっていない。民間企業の参入が始まっている。子どものデータが蓄積され利用される心配があるし、公教育の崩壊の心配も。子どもの学びについて再度考え直す時期に来ている。

いわき 特別支援学級の現状と問題。急激な変化に対応できていない現状。定数8人から6人へと県教委へ交渉し、特別支援教育の条件整備を求めているが、進まない。いわき市でも支援員の配置基準が7人に1人となってしまった。市は制度上業務による賃金の加算が困難と言っているが、改善して働きやすい学校にしてほしい。

北会 給食費の公会計化について。会津若松市が2023年度より給食費が公会計化になる。議会でも要望してきた。現在の集金、支払いは教育委員会が担う。未納者問題、督促等の悩みが減る。会津若松市にある金融機関であれば口座引き落とし可能。児童手当からの自動引き落としも可能。保護者負担の手数料もなくなる。2学期より申請手続きが始まる。

相馬 教育課程編成検討推進委員会について。教育課程をつくる時に多忙化を無くす「モジュールの活用。プールは7月まで。部活動でもオフシーズンを設定する。運動会も午前で終わる。」などなど。支部や分会で職場討議資料を活用して学習を進めていくことが重要。免許更新制に代わる研修制度について。研修記録を校長や県が奨励する義務を課すというような書かれ方をしている。キャリア形成者は自分自身。履歴は自分だけのものにするなどしないと、強制的研修となる可能性がある。教員も個別最適化される危険ある。

私たちの声を国会へ

教員免許制度の廃止や改正給特法7条による『働き方改革』の実現に向けた動きなど、今後も私たちの労働条件や教育環境改善に向けて、行政へ現場の声を届けることが必要です。

県教組では、今大会で「7月予定の参議院議員選挙では、市民と野党の共闘を推し進める運動に取り組むとともに日政連議員の当選をめざす」という方針を決定しました。

参議院比例区

(日政連議員候補者)

古賀ちかげ

福岡で臨採部を立ち上げた方です。



参議院福島選挙区

小野寺あきこ

野党統一候補者として、立候補しています。



投票日には、必ず投票しましょう。